第99号

藤枝明誠ニュース

Fujieda Meisei News 2020.10

発行　学校法人　藤枝学園
藤枝明誠中学校・高等学校
渉外課広報担当
TEL（054）635-8155
FAX（054）635-8494
【URL】https://www.fgmeisei.ed.jp
【Email】meisei@fgmeisei.ed.jp

令和2年度8月29日（土）青藍祭開催

テーマ『満天星海』

クラス 部活動 同好会 計49団体が参加

コロナを吹き飛ばせ！

生徒達の笑顔溢れる青藍祭

本校の文化祭である「青藍祭」が8月29日に校内発表のみで開催された。本年は新型コロナウイルスの流行の中、クラス、部活動、同好会から計49団体が参加した。本年度のテーマは「満天星海」。いつの世も夜空を見上げれば満天の星空が広がっており、昔から光り輝き続けている。現在、世界中で猛威を振るっているコロナウイルスの影響で様々なことが制限され、我慢することが多くなっているからこそ、生徒達が満天の星空のように光り輝き、素晴らしい時間を共有できるようにと願いを込めて名付けた。

文化祭の定番といえば各クラスが知恵を出し合い、工夫を凝らした展示・模擬店であるが、このような状況下なので例年行っている調理や「迷路」、「お化け屋敷」などは実行することができなかった。しかし、様々な制約が設けられている中、各団体は最大限の努力をし、文化祭を大いに盛り上げた。

模擬店では、すでに調理・包装されているパンやおにぎり、飲み物を中心に出店し、展示ではゲームコーナーや写真、書道の作品展示、体験コーナーを設けた。中でもホラー映画を自作したクラスもあり、教員自らも撮影に参加しており、話題をよんだ。

ステージでは高校1年生がダンスや劇を発表し、有志団体、吹奏楽部は演奏を披露した。各団体とも個性を発揮し、会場を大いに沸かせた。

今年度は例年通りにいかないことが多く、様々な場面で制約があったが生徒達の協調性や良いものを創ろうとする熱意が伝わってきた。当日の生徒達は笑顔が溢れる「満天星海」の文化祭になった。

（生徒会担当　辻 俊行）

明誠生の想いが詰まった1枚に

～ピクチャーアート2020～

全校生徒の協力で作成されたピクチャーアート

青☆藍☆祭☆

310HR（附属島田中出身）増田　理直子

「満天星海」をテーマに掲げた今年度の青藍祭は、全校生徒の笑顔が溢れる素晴らしいものとなりました。見入ってしまうステージ発表、趣向を凝らした展示やアトラクション、魅力的な模擬店などの様々な場面で、生徒の皆さん一人ひとりが輝き、活躍している様子はまさに満天の星空のようでした。

生徒会では、準備期間中から皆さんが、青藍祭の活気を感じられるよう、当日の1週間前から玄関ホールに各団体のポスターを掲示しました。ホールに並んだ色鮮やかなポスターは、生徒の皆さんだけでなく、先生方からも好評で大変嬉しく思いました。

また、全校生徒一人ひとりの夢が描かれた紙を使用して制作したピクチャーアートは、とても輝かしい作品となり、青藍祭の盛り上がりに華を添えることができました。

最後になりますが、このような状況の中、無事青藍祭が開催できましたことを心から嬉しく思っております。保護者の皆様、先生方、生徒の皆さん、青藍祭へのご協力、本当にありがとうございました。

一人ひとりが役割を全う

33HR（青島中出身）福田　涼貴

高校生活最後の文化祭。33HRではオリジナルドリンクの模擬店を出しました。新型コロナウイルス対策のため、商品の仕入れ方、保管の仕方、販売の方法など、たくさんの注意点がある中でも、クラス一丸となって取り組むことができました。チケットを完売させるため、通常の飲み物ではなく、インパクトのあるドリンクをクラス内で考えたり、商品のイメージにあった外装・内装の工夫をしました。多くのアイデアを出し、定期的に買い出しに行くなどして、一人ひとりがそれぞれ自分の役割を持ち、仕事を進めることができました。その結果、当日は大きな失敗なく商品を売ることができました。最後の文化祭のため、皆良い思い出を作ろうと気合が入っていました。今年は、感染症対策のため、例年と違い1日だけの文化祭でしたが、クラス内で協力したことが成功につながり、良い思いでになったと思います。

思いがけない苦労の先に得たもの

27HR（御前崎中出身）植田　瞳子

「ホラー映画上映」そう決まったのは不純な動機からでした。他のクラスとの差別化を図りたかったわけでもなく、ただ「当日が楽だから」それだけの理由で27HRは高校2年の文化祭をホラー映画に懸けました。ですがやってみると「楽」なんてものとは程遠いものでした。シナリオ作りから撮影、編集まですべての過程を自分たちだけで作り上げるわけです。スケジュール通りに進むように一人ひとりが最善を尽くしました。ですがそう思うようには進まず、いい映像を撮るため文化祭前日まで撮影をしました。そんな中、無事に当日を迎えることができました。当日までの道のりは険しいものでしたが、みんなで支え合い当日には動機であった「楽」を手に入れられました。最終的な目的が不純でもそこにたどり着くまでの過程をこの27HRで乗り越えられたことは忘れられない最高の思い出になりました。

チアリーディング部 Daisies―全国No.1（バーチャルコンテスト）

金賞さらに優秀賞を獲得!!

全国大会中止もバーチャルコンテストでは実力発揮

悔しさを力に部員たちを引っ張った

38HR（高洲中出身）
岸端　海咲

7月初め、私たちチアリーディング部が出場する予定だった大会の中止が発表されました。その大会で入賞することを目標に一年間努力してきました。また、3月に行われるはずだった全国大会への出場も決まっていましたが、すでに中止が決定していたため、夏の大会へ懸ける思いはとても強いものでした。中止と聞いた時は悔しい思いでいっぱいでしたが、代わりとなるバーチャルコンテストの開催が決定し、Daisies の持っている最大の力を発揮しようと決めました。

このコンテストでは私たちチームがいつも行っている、人を持ち上げたりするスタンツは禁止され、ダンス、ジャンプ、タングリングだけの演技を作らなければいけませんでした。私たちはあまりダンスが得意なチームではないので、動画を見てアドバイスを出し合い、直すところを何度も確認しました。高校3年生にとっては最後の大会だったので、熱が入り厳しく言ってしまうこともありましたが、いつも明るくついてきてくれた後輩たちにはとても感謝しています。

優秀賞を獲得したDaisiesメンバー

最終的には全員が納得のいく演技を作り上げることができました、その結果、私たちはチアリーディング部門で金賞、さらに優秀賞を獲得することができました。今年は多くの部活の大会が中止になり、悔しい思いで引退した3年生がたくさんいる中で、このような評価をいただけた私たちは本当に幸せだと思います。バーチャルコンテストを開催してくださった方々をはじめ、顧問、副顧問の先生、家族、そして最後まで一緒に頑張ってきた仲間に心から感謝しています。これからは後輩たちがさらにレベルアップした Daisies を作ってくれると期待しています。今後も Daisies を応援して頂けたられしいです。

全国ナンバーワンとしてさらに精進を

大会結果が伝えられた瞬間

全国大会への切符を中高同時に獲得した歓喜の瞬間から半年が経過した。新型コロナウィルスの影響から日米両国間における渡航制限が解消せず、ジャッジの来日が不可能になったため、全国大会だけでなく夏の大会も中止が決定した。そんな中、開催が決まったのが今回初の試みとなる USA Cheerleading & Dance Virtual Team Contest である。

選手同士が接触する構成は禁止、2メートル以上の距離を保ちながら演技をするという新ルールは、スタンツをメインとするチアリーディングで勝負している Daisies にとって、とても難しいものだった。中学校1年生から高校3年生までが一つのチームとして演技をつくっていく中で、それぞれに悩みや不安、葛藤があったと思う。しかし学年やポジションを問わず、メンバー同士が個々の弱点を指摘し合い克服していく様子はとても頼もしかった。そしてキャプテンの圧倒的な技術の高さは、皆の憧れであり目標になったのではないだろうか。

全国ナンバーワンを獲得した今、今後はこれを維持していけるチアリーダースピリットと技術が必要になる。日頃から、協力や応援をしてくださっている全ての方々に感謝し、今後も精進していきたい。

（チアリーディング部顧問　松本 早紀）

第31回定期演奏会

繋ぐことができた歴史

支えてくださる方々へ感謝をこめて

去る8月30日（日）、焼津市文化センター大ホールにて吹奏楽部第31回定期演奏会を開催した。新型コロナウィルスの影響で、一時は定期演奏会自体、開催が危ぶまれたが、関係各所の協力もあり、無事に開催する運びとなった。

第1部では、本年度の吹奏楽コンクール課題曲（吹奏楽コンクールは中止）である「吹奏楽のためのエールマーチ」で幕を開け。続いて新型コロナウィルスが1日も早く終息し、平穏な日常が戻ることを願い「a song for japan」などを演奏した。第2部のポップス・ステージでは、流行りのJ-POPからジャズナンバー、懐かしのヒット曲などを演奏した。

今回の定期演奏会では入場者を学校関係者、吹奏楽部父兄に限定し、座席を空けるなどソーシャル・ディスタンスを保つことにとした。例年のように、一般のお客様を招いての演奏会とはならなかったが、先人たちが繋いでくださった定期演奏会を途切れさせることなく、今年も開催できたことに安堵している。

音楽という芸術は聴衆あってこその芸術であると再認識をした。残念ながら、全ての聴衆に演奏をお届けすることはできなかったが、演奏ができるということに感謝し、引き続き活動をしていきたい。そして、聴衆を魅了する演奏の追求を目指し、日々精進したいと思う。

（吹奏楽部顧問　鈴木太山）

留学から帰ってきました

環境保護、そして共生社会を目指すために

32HR（清水庵原中出身）
望月　開路

私はニュージーランドで生まれ日本で育ちました。小さい頃から自然が大好きで環境活動には毎週のように参加していました。しかし、多くの動物が現在、絶滅の危機に瀕しています。

私は、それを守りたいと思い、自然環境や絶滅危惧種の保護に力を入れているニュージーランドで環境保護と在来種保護を学ぶため、「トビタテ留学」プログラムの「アカデミック・ロング」（1年間）に挑戦しました。

私が留学先に選んだ場所は、Te Anau と言う街で、国立公園内にあります。Te Anau は国立公園内にあり、環境や在来種保護に力を入れています。更に、街の学校教育も、環境保護教育に力を入れています。

また、留学中はホームステイをしていました。ホストファミリーが優しく受け入れてくれたおかげで、落ち着いて過ごすことができました。ホストファミリーは、私を自分の家族のように受け入れてくれました。

留学中は季節ごとに様々な活動に参加しました。春は、植樹を行いました。ニュージーランドはかつて、イギリスが移民してきた時、牧場を開拓するために大量の木々を伐採しました。元の森に戻すために、植樹の活動がすべての学校で行われています。

また夏から秋にかけて、毛皮を採取するために持ち込んだポッサムやイタチを駆除するために、仕掛けの確認をしました。

世界では、人種差別が問題になっていますが、私が通っていた学校では、様々な国の生徒が学んでいました。そのため、誰一人差別することなく、私を一人の生徒として受け入れてくれました。友達はいつも私の名前を呼び、放課後にみんなで遊び、楽しい毎日を過ごすことができました。

この留学経験を通して、私は、今回得た課題をより深く学び、日本の環境や動物の保護の取り組みについて、深く学んでいくために環境学部に進学したいと考えています。

ホストファミリーとの1枚

令和2年度体育大会

入念な準備のもと開催

210HR（藤枝明誠中出身）石黒　昂貴

2年生が運営の主軸となって行った初めての行事でした。文化祭が終わってから約1ヶ月と、とても短い期間のなかで、新型コロナウイルスの感染予防にも心がけて準備をしてきました。例年通り行うことのできない競技が多かったのですが、少しでも楽しんでいただけたのであれば幸いです。

最後になりますが、無事に体育大会を終えることができたのは臨機応変に対応してくださった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

中・高両野球部主将の選手宣誓